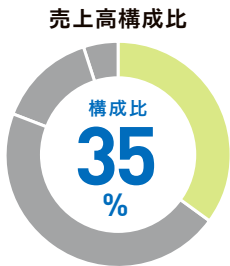
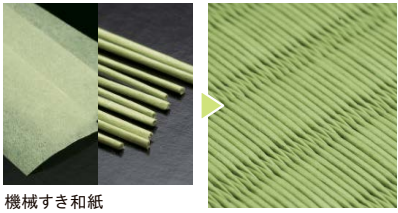


素材事業

機能性の高い素材を開発・提供

サステナブルな視点で木質資源や鉱物資源を有効活用し、不燃、耐震、断熱、吸音、調湿など、人々の生活シーンに求められるさまざまな機能を付与した素材を提供しています。



木質資源を有効活用	概要		主な特長・機能	主な用途	
	インシュレーションボード 建築解体木材などを主原料に活用し、板状に成形した木質繊維板	 木材チップ	●断熱性 ●調湿性 ●クッション性 ●軽量	畳床 インシュレーションボード	養生ボード
	MDF 製材端材などを主原料に活用し、板状に成形した木質繊維板	 木質繊維	●寸法安定性 ●表面平滑性 ●加工性 ●耐水性	建材・家具の基材 (ドア、収納、窓枠等の芯材)	
	単板・LVL 単板：丸太を切削したもの LVL：単板を繊維方向にすべて平行にして積層・接着した木材加工品	 単板 LVL	●寸法安定性 ●高強度 ●加工性	I-Joist	構造材
	畳おもて 機械すき和紙をこより状により合わせ、樹脂コーティングした後、織り上げた畳おもて	 機械すき和紙	●耐光性 ●撥水性 ●調湿性 ●カラーバリエーション	畳	
鉱物資源を有効活用	ダイロートン 製鉄時の副産物ロックウールを活用し、板状に成形した鉱物質繊維板	 ロックウール	●不燃性 ●軽量 ●吸音性 ●加工性	天井材	
	ダイライト 未利用資源シラス(火山灰)とロックウールを活用し、板状に成形した無機質素材	 ロックウールとシラス	●不燃性 ●軽量 ●高強度 ●加工性 ●透湿性 ●防蟻性 ●防腐蚀性	壁下地材	壁材



日経
アーキテクチャ
建材・設備メーカー
ランキング
2024

無機系耐力面材部門
2位

読者を対象に、建材・設備メーカーの製品採用意向等をアンケート調査
2024年11月28日号



Voice of Employee



岡山工場
製造部 FB加工課
FB加工1係 係長
清水 亮長



高萩工場
製造部 製造課
製造2係 製板組長
加藤 達也

私は岡山工場でダイロートン加工ラインの製造係長として生産進捗や品質管理に携わっています。所属するFB加工課は、製造における最終工程である表面加工(模様加工、塗装、梱包など)を担当しています。『ダイロートン』はオフィスビルや商業施設、学校や住宅などで活用されているロックウール天井材です。1964年の生産開始から60年以上にわたり、常に安全・品質・生産性を念頭に置きながらリニューアルを重ねてきましたが、実は製品をより良くするためのヒントの多くは日常のコミュニケーションの中に潜んでいます。課員の指導は私の重要な業務の一つですが、作業で困っていることをヒアリングしたり、仕事に関する話題を引き出すことで、自分でも気づかなかった新しいアイデアに出会うことができます。また、製造ラインのメンバーは年齢層が広いので、ベテランの経験豊富な知識や若手ならではの発想など、多くの意見から最善の改善策を考えていくことが、今の仕事の楽しさであり、やりがいでもあります。吸音や調湿など多様な機能を携えたロックウール天井材は快適な生活空間を実現する素材です。より多くの方に使っていただけるような製品づくりに邁進するとともに、技術継承に留まらないさらなる進化を目指していきます。

高萩工場では建築廃材を主な原料とするインシュレーションボードを製造しています。インシュレーションボードは住宅の外壁下地や集合住宅の床下材、畳の中芯など、建物の見えない部分を支える重要な素材であり、当社で最も長い歴史を持つ製品のひとつです。私はその製造ラインで製板工程を担っており、ボードの厚さや強度など、品質に関わる業務に従事しています。なかでも厚みの調整は0.1mm単位で行う繊細な工程であり、高品質な製品づくりに欠かせません。責任の重い仕事ですが、「良い製品を作りたい」という想いから、日々製造ライン全体の状態把握を徹底し、最適な調整を心がけています。また、インシュレーションボードの製造ラインは成型から完成品が仕上がるまでが1つのラインでつながっており、ラインに携わる全員が一体とならなければ品質を担保することができません。そのため、他のメンバーとしっかりと信頼関係を築き、仕事に対する足並みを揃えられるように関わっていくことが、リーダーとして大切にすべきことだと考えています。今後も職場全体の品質意識の向上に努めるとともに、新たな商品開発にも積極的に取り組んでいきます。



素材事業

事業の方向性

- サステナブル素材のグローバル展開と社会課題解決を起点とした新市場開拓
- 回収、再利用、未利用資源など、環境負荷低減に貢献する製品の普及

「事業を通じた価値創造」に向けた取り組み

事業を通じた価値創造
公共・商業建築分野の課題解決



木材硬化技術による地域産材製品化

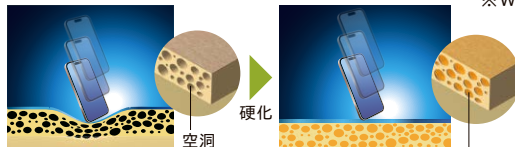
木材組織にプラスチックを注入・充填して硬化させる DAIKEN 独自の WPC※技術により、優れた表面硬度を有する国産天然木化粧材を用いた床材の提供が可能になりました。国産樹種の多くは軟らかい材質であるため、床材として使用するには耐久性が低いことが課題でしたが、この技術を活かし、地域産材活用のニーズに応えながら、国産木材の活用の幅を広げていきます。

WPC 技術による
地域材製品化実績

30
都道府県



WPC 床材



プラスチックの充填により、凹みや傷に強さを発揮

プラスチック

※WPC: Wood Plastics Combination の略

事業を通じた価値創造
持続可能・循環型社会の実現



環境配慮型資材による健全な森林資源保全

国産木材をマテリアルとして長く活用するという想いのもと、未利用材や製材端材などを解繊処理した木質ファイバーを利用した有機質の環境配慮型資材を開発しました。これらの製品は、森林から切り出された木材が、次なる植物の生育を助け、再び土に還るという資源循環を実現し、森林資源の保全や、カーボンニュートラルの取り組みに寄与します。

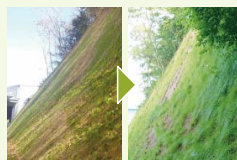
DW ファイバー(土壌改良材)

特徴

- ① 軽量で施工性が良い
- ② フルボ酸添加による植物の活性化
- ③ 飛散しにくく、耐久性に優れる

主な用途

土壌改良(土木工事用途)



『DW ファイバー』による
斜面の緑化事例



土壌改良材
『DW ファイバー』

Deco マルチ(マルチング材)

特徴

- ① 日光遮断による雑草予防・地温安定化
- ② 国産未利用木材100%の環境配慮型資材
- ③ 景観を損ねない天然素材ならではの仕上がり

主な用途

外構・造園のマルチング



マルチング材『Deco マルチ』

グロウアース(木質培地)

特徴

- ① 園芸用土と比較して軽量であり、建物の屋上などで利用できる
- ② 生育阻害物質の抑制により単独で植物の栽培が可能

主な用途

屋上菜園・ベランダ(室内)栽培



木質培地
『グロウアース』



2023年4月より、都市部のオープンスペースの新たな活用法として、『グロウアース』を用いた『みんなのエコ菜園』を事業化しています。都市型菜園のプランニングから運営までをワンストップでサポートし、ウェルネスな空間づくりによる建物価値向上に貢献します。

『みんなのエコ菜園』



事業を通じた価値創造
国内外の住宅市場を支える

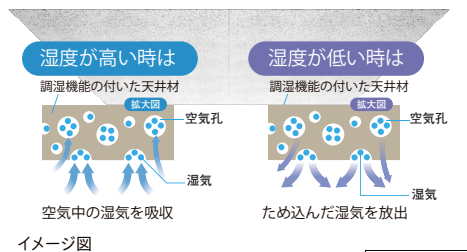


快適な生活空間の創出(調湿)

住宅の省エネ水準向上に伴う高気密化により、湿度、におい、音の問題が顕在化するようになりました。このような室内の困りごとへの対応として、『ダイロートン健康快適天井材』の提案を行っています。一般的なクロス貼り天井と比べ、陰影が際立つ立体的なデザイン性を実現。また、調湿性能や消臭性能、不快な音の響きを抑える吸音性能を備えており、空間全体を健やかで快適に演出します。



『ダイロートン健康快適天井材』



イメージ図

部屋干し比較実験



Voice of Executive

執行役員 エコ事業部長
遠藤 稔



執行職 MDF事業部長
本田 貴久



2024年度は未利用資源を活用した『ダイライト』を基材とした不燃化粧材『グラビオ』シリーズが公共・商業建築分野を中心に販売を伸ばしました。『グラビオ』シリーズは不燃材でありながら軽量かつ加工性に優れ、多彩な意匠を表現できる点が市場に評価されたものと思われます。今後もより幅広い用途展開を模索し、不燃性が求められる空間の価値を高める建材へ育てていきたいと考えています。

天井材『ダイロートン』は、住宅・工事・海外向けにそれぞれマーケティングをおこなっています。特に住宅向けの販売においては高い調湿性能をPRし、部屋干し需要にアプローチすることで共働き世代を中心としたニーズの深耕に注力しました。木質素材のインシュレーションボードは製造時の環境負荷が低く、原材料に建築解体木材などを焼却せず利用することで炭素貯蔵量の維持にも寄与しています。主力製品である養生ボード・畳ボードの供給のみならず、新たな用途開拓をすすめ、サステナブルなマテリアルとしての認知度を高めていきたいと考えています。

また、昨今のインバウンド需要の復調を受け、業界全体で畳文化を盛り上げていく施策を検討しています。当社が製造する畳おもてを含め、暮らしに根差したインテリアとしての「畳」を継承・発展させる一助となるよう、事業部一丸となって取り組んでいきます。

MDF事業は1994年の事業開始(DSK社設立)から30周年を迎えました。現在はマレーシア2工場、ニュージーランド2工場の生産体制で、世界各国にMDFを供給しています。2024年度は世界的なMDF市況の低迷、為替の不安定化、ニュージーランドの電気代高騰に加え、大規模な大雨・洪水被害と激動の経営環境の連続でしたが、事業部一体となりコストダウンや構造改革を推し進めてきました。

昨今、欧州を中心に合法伐採木材への対応機運が高まる中、ニュージーランドのFSC®認証材や、マレーシアの自社植林地で新たに取得したPEFC®-FM認証の材を原材料に使用するなど、MDFの認証材比率拡大を推進しています。また製造時・運搬時の環境負荷を低減するため、従来品と同等性能を維持しながら軽量化したMDFの開発も進めてきました。加えて、2024年度は新製品としてMDF野地板、パレット用途など新規用途の開拓にも注力しており、常に挑戦するマインドを体現した1年だったと感じています。

事業の不確実性が増す中で、さらなる構造改革や情勢変化を素早く捉える組織体制の構築が必要不可欠です。引き続き品質改善・安定供給に努めるとともに、社会課題解決に寄与できるような製品作りに邁進し、業界のリーダーとして選ばれる存在であり続けたいと考えています。

※PEFC: 国別あるいは地域別などのさまざまなレベルで設立された森林認証制度を相互に承認し、環境の保全とこれに関わる産業の繁栄を目指す国際統括組織